

あいち朝日遺跡ミュージアム

地元・清須市には約2000年以上も前の暮らしがわかる遺跡が多数発掘されている。それらを収蔵し、2020年11月にオープンした「あいち朝日遺跡ミュージアム」の見どころを紹介しよう♪

清須を中心に見つかった2000年以上前の集落跡

あいち朝日遺跡ミュージアムは2020年11月22日にオープンしたばかりの新しい施設。ここには清須市（旧西春日井郡清洲町・新川町・春日町）と名古屋市西区にまたがる東西1.4km、南北0.8km、面積にして80~100万m²に及ぶ広大な範囲で見つかった、弥生時代前半から古墳時代前期（紀元前6世紀~紀元後4世紀頃）までの遺跡が展示されている。この遺跡を「朝日遺跡」と呼ぶようになったのは1970年代に入つてから。かねてよりこの地域では貝塚や土器・石器などが出土しており、道路建設に伴い、愛知県が大規模な発掘調査を開始した。その結果、発見された多数の弥生時代の遺物から、これまで点在する貝塚や遺物包蔵地と考えられてきた個々の遺跡は、まとまりをもつ一つの集落であることが明らかになり、この集落跡を「朝日遺跡」と呼ぶようになつた。

尾張地方最古の弥生遺跡として知られる「貝殻山貝塚」は、西日本を

中心とする前期弥生文化の東端の遺跡として、古くから学界で注目され、昭和46年（1971年）12月に貝殻75年）に貝殻山貝塚資料館がオープン。その後、平成24年（2012年）9月6日には、朝日遺跡の主要な出土品2028点が国の重要文化財に指定され、収蔵スペースの不足や貝殻山貝塚資料館の老朽化を鑑み新たにあいち朝日遺跡ミュージアムをオープンすることとなつた。単館としては国内最大級の収蔵数を誇る博物館が誕生したのだ。

尾張地方の特徴を語る 数々の出土品

あいち朝日遺跡ミュージアムの工ントランスクを抜け、まずは右手の基本展示室1へ。ここには朝日遺跡発掘マップや弥生時代の朝日遺跡を再現したジオラマ、手をかざすとアニメ映像が流れクロスロードビジョンなどで当時のようすをわかりやすく紹介。さらに進んで基本展示室2へ入ると、国の重要文化財に指定された



1.基本展示室2 2.⑤高さ46.5cmの銅鐸。この時代から高い火力を制御する高度な技術が用いられていたことがわかる。⑥「円形銅器」平成14年度の調査で出土。東海地方では初めての出土例 3.基本展示室1で展示されているジオラマ

information

あいち朝日遺跡ミュージアム

清須市朝日貝塚I番地
TEL: 052-409-1467 開館時間: 9:30~17:00
休館日: 月曜日(祝日の場合、翌平日)及び年末年始
<https://aichi-asahi.jp/>

朝日遺跡出土品

出土品

装飾性に富む赤彩土器と、独特な形状の円窓付土器は尾張地方の特徴を表す

石を加工して作った装飾品は、現代でも使用できそうなデザイン

左)動物の骨や角を加工したヤス・モリ・釣針など 右)鍬や鋤など、農作業や土木作業に用いられた木製品。2000年以上の時を越えながらも形状が残っていることに感動する

体験を通して弥生時代を身近に感じよう

あいち朝日遺跡ミュージアムでは、弥生時代の道具や衣裳体験ができる「キッズ考古ラボ」や勾玉づくりが開催される予定である。

私たちが思う弥生時代の暮らしは狩猟中心から稻作が始まることで、穀やかなになつたと思ひがちだが、朝

灰岩で作られた勾玉・管玉、動物の角や骨を加工して作られた髪飾りなどの装飾品は、現代人でも使用したくなるようなデザインで、当時の人たちもオシャレを楽しんでいたと知ることができる。精巧な文様帯とベニガラの塗布が特徴の「赤彩土器」と、壺の体部に大きな丸い穴があけられた不思議な形状の「円窓付土器」は尾張地方の特徴的な土器で、円窓付土器においては具体的的な使い方はまだわかつていないという。良質な状態で多くの遺物が見つかったことにより、弥生時代の清須周辺の暮らしぶりが少しずつ解明されつつある中、まだまだ謎も多いようだ。

1.施設内にある貝塚。一番高くなっているのが第1貝塚（貝殻山）、手前が第2貝塚 2.体験ができるスペース「キッズ考古ラボ」のイスやテーブルは、土器や勾玉をイメージしたもの 3.弥生時代の稻作体験をする「体験水田」 4.弥生時代前期の貝塚を復元

りや土器づくり等のワークショップを開催している。屋外には復元された堅穴住居、高床倉庫、方形周溝墓があり、弥生時代をさらに身近に感じることができる。

コロナ禍で制約の多いオープンとなり、いつまでも開催している。屋外には復元され

た堅穴住居、高床倉庫、方形周溝墓があり、弥生時代をさらに身近に感じることができます。

なつてしまつたが、「これから先、やつていきたいことはたくさんあります」と言う学芸課長の原田さん。

「2028点という多くの重要な文化財を収蔵し、しかも、常設展でご覧になれる博物館はとても貴重だと

思います。これからいろんな事業を始めていくなかで、多くの人にこの魅力を知つてもらいたいですね」と語る。

そのためには、まず始めたいことは法で稻作体験をする参加者を募集予定だ。

2000年以上前という想像もつかない歴史をたどる場所。それがあいち朝日遺跡ミュージアムである。

04

05